

# ランネート™45DF

■種類名：メソミル水和剤  
 ■有効成分：メソミル ----- 45.0%  
 ■化管法指定物質：メソミル [第1種] ----- 45.0%

■登録番号：第20863号  
 (エムシロップ® & ライフ化成登録)  
 ■毒性：医薬用外劇物  
 ■登録初年：2002.07.30  
 ■性状：青色水和性微粒及び細粒  
 ■有効年限：4年  
 ■包装：500g×24本

TM コルテバ・アグリサイエンスならびにその関連会社商標

## 【特長】

- 広範囲の害虫に効果のあるカーバメート系殺虫剤。
- 人畜に対する安全性をさらに高めるため、粉立ちの少ない顆粒剤に改良され、さらに使いやすくなった。
- 吸汁性害虫、食葉性害虫に高い効果がある。
- 野菜、畑作物、いちご、茶など適用作物が広い。

## 【適用内容】(2023年10月末日現在)

作物名	適用害虫名	希釈倍数(倍)	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	メソミルを含む農薬の総使用回数
かぼちゃ	ワタアブラムシ	1000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
いちご	イチゴメセンチュウ イチゴセンチュウ			育苗期 定植後生育初期			
	いちご	イチゴネグサレセンチュウ	1~2 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$	移植活着後(育苗期)	4回以内	灌注	4回以内
コガネムシ類幼虫		2~3 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$					
ピーマン(露地栽培)	タバコガ ハスモンヨトウ	1000~2000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫開始 14日前まで	3回以内	散布	3回以内
キャベツ	アオムシ、コナガ ヨトウムシ アブラムシ類 ハスモンヨトウ タマナギンウワバ			収穫14日前まで			
はくさい	アオムシ、コナガ ヨトウムシ アブラムシ類	1000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内 (は種時の土壌混和は1回以内)
レタス	ヨトウムシ アブラムシ類 オオタバコガ ナメクジ類			収穫14日前まで			2回以内 (植付時の土壌混和は1回以内)
チンゲンサイ こまつな	アブラムシ類	1000~2000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫14日前まで	3回以内	散布	2回以内
サラダ菜	ヨトウムシ アブラムシ類 オオタバコガ			収穫21日前まで			3回以内
カリフラワー	ヨトウムシ アブラムシ類	1000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫21日前まで	2回以内	散布	2回以内
ブロッコリー	ヨトウムシ アブラムシ類	1000~2000					
かぶ	アブラムシ類 アオムシ	1000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
ごぼう	アブラムシ類						
ほうれんそう	ヨトウムシ ミナミキイロアザミウマ	1000~2000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫14日前まで	4回以内	散布	4回以内
	ねぎ	アブラムシ類					
たまねぎ		シロイチモジヨトウ クロバネキノコバエ類	1000~2000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫7日前まで	4回以内	散布
	ネギアザミウマ						

作物名	適用害虫名	希釈倍数 (倍)	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	メソミル を含む農薬の 総使用回数					
しょうが	ハスモンヨトウ	1000~ 2000	100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫7日前 まで	4回以内	散布	4回以内					
だいこん	アオムシ、コナガ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ			収穫21日前 まで	2回以内		2回以内 (は種時の土壌混 和は1回以内)					
ばれいしょ	ジャガイモガ ナストビハムシ ニジュウヤホシテントウ	1000		収穫7日前 まで	5回以内		5回以内					
	アブラムシ類	1000~ 2000		収穫14日前 まで	4回以内		4回以内					
かんしょ	ハスモンヨトウ ナカジロシタバ				3回以内			5回以内				
だいず	ハスモンヨトウ シロイチモジマダラメイガ マメシクイガ	1000~ 2000		収穫7日前 まで			5回以内		5回以内			
えだまめ	カメムシ類 ツメクサガ				1000			収穫前日まで		2回以内	2回以内 (は種前の土壌混 和は1回以内)	
てんさい	ヨトウムシ トビハムシ	2000		収穫30日前 まで			1回		1回			
にんじん	ヨトウムシ ハスモンヨトウ アブラムシ類 クロバネキノコバエ類				1000~ 1500			200~400 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$		摘採21日前 まで	2回以内	2回以内
パセリ	アブラムシ類	1000~ 2000		25~180 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$			収穫10日前 まで		30分間 種球 浸漬			
茶	ハスモンヨトウ チャトゲコナジラミ		1000			200~400 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$						
	ココクモンハマキ チャハマキ チャノホソガ ミドリヒメヨコバイ				1000~ 2000			25~180 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$		収穫10日前 まで	30分間 種球 浸漬	1回
	タバコガ ヨトウムシ ハスモンヨトウ	1000		100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$			収穫30日前 まで		2回以内			
食用ゆり	クロバネキノコバエ類		500			—						
セルリー	ヨトウムシ アブラムシ類 ハスモンヨトウ		1000		100~300 $\frac{\text{g}}{10\text{a}}$	収穫30日前 まで		2回以内		散布	2回以内	
アスパラガス	ネギアザミウマ	1000		1~3 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$		収穫前日まで	1回	2回以内 (散布は1回以内、 灌注は1回以内)				
	ナメクジ類					収穫3日前 まで						
にら	ネギアザミウマ クロバネキノコバエ類	1000	1 $\frac{\text{g}}{\text{m}^2}$	収穫21日前 まで	2回以内	灌注	2回以内					
	らっきょう							ネダニ類				

#### 【効果・薬害等の注意】

- 本剤を使用した場合には、アラニカルブを含む剤は使用しないこと。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきること。
- 石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性薬剤との混用はさけること。

- はくさいに使用する場合は、定植後20日以内では薬害のおそれがあるので使用しないこと。また、定植後20日頃に使用する場合は、低濃度（2,000倍）で使用する。
- ジャガイモガに対しては、潜葉幼虫を対象に使用すること。
- イチゴネグサレセンチュウ防除の場合、苗の移植活着後(育苗期)に7～10日間隔で2～3回ジョロ等で灌注すること。
- ミナミキイロアザミウマの防除に使用する場合は、生息密度が高まると効果が劣るので、初発生をみたら直ちに散布すること。なお、ミナミキイロアザミウマは繁殖が早いので、散布はかけ残しのないようていねいに行うこと。
- ねぎのシロイチモジヨトウの防除に使用する場合は、食入前の若齢幼虫期に散布すること。
- 散布液の漂流飛散による危害を防止するため、特に水田転換作の大豆などに散布する場合は、フォームスプレー（泡散布）することが望ましい。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないように注意すること。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意すること。
  - ◆ ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。
  - ◆ 関係機関（都道府県の農業指導部局や地域の農業団体等）に対して、周辺で養蜂が行われているかを確認し、養蜂が行われている場合は、関係機関へ農業使用に係る情報を提供し、ミツバチの危害防止に努めること。
- 本剤の使用に当たっては、危害防止のため使用条件などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

### 【安全使用上の注意】

- ❖ 医薬用外劇物。取扱いには十分注意すること。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせること。
- ❖ 作業中に、粉末や噴霧を吸い込んだ場合は、薬剤にさらされない場所に移り、安静にすること。薬液を多量に浴びたときには、衣服を脱ぎ、皮膚・眼をよく洗うこと。また、身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当てを受けること。
- ❖ 本剤による中毒に対しては、硫酸アトロピン製剤の投与が有効であると報告されている。呼吸が困難な場合は気道を確保すること。口移し人工呼吸は行わないこと。
- ❖ 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けること。
- ❖ 薬液調製時及び使用の際は、防護マスク、保護眼鏡、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼するとともにうがいをする。
- ❖ 本剤の散布に当たっては危害防止のため、胸の高さ以下の作物に対して下に向けて散布することとし、作物が胸の高さを超える場合は絶対に散布しないこと。特にたばこでは、草丈が腰の高さの時までに散布すること。
- ❖ 施設内において灌注処理を行う場合は、出入り口、天窗、側窓等を開け、適宜、通気を確保して作業を行うこと。
- ❖ 本剤の灌注処理に当たってはハス口状ノズルを使用すること。また、危害防止のためハス口状ノズルを腰より下にして地面に向けて灌注すること。
- ❖ 被覆中の茶園や施設内など、噴霧のこもりやすい場所での散布は行わないこと。
- ❖ 高温多湿時の長時間作業及び疲労時の使用はさけること。
- ❖ 魚毒性等：河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意する（甲殻類）。散布器具・容器の洗浄水は河川等に流さない。また、空容器などは水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
- ❖ 保管：直射日光を避け、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管すること。